

原因多くは耳の障害

病院の実力

～神奈川編 215

めまい

今回の病院の実力は「めまい」を取り上げる。原因の多くは耳にあるとされ、三半規管などバランスをつかさどる器官の障害で起こりやすい。

一覧表では、2024年の新規患者数と、このうち良性発作性頭位めまい症(BPPV)

病院の実力「めまい」

医療機関別2024年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	新規患者数	良性発作性頭位めまい症 (人)	メニエール病 (人)	めまい相談医 ○=在籍	耳石置換法の実施率 ◆
なかむら耳鼻咽喉科ク	1304	478	42	○	4
湘南藤沢徳洲会	1101	27	105		1
横浜市立みなと赤十字	955	450	150	○	4
北里大	702	34	183	○	5
新百合ヶ丘総合	699	8	142		2
大和市立	648	76	99		1
湘南鎌倉総合	597	118	72		1
茅ヶ崎市立	508	47	65		1
横浜市立脳卒中・神経脊髄セ	469	213	25	○	4
聖マリアンナ医大横浜市西部	425	178	32	○	2
東海大	293	42	44	○	4
ふじさわ脳とからだのク	275	201	11	○	1
昭和医大藤が丘	242	56	79		1
関根耳鼻咽喉科医院	200	70	30	○	2
横須賀市立総合医療セ	155	50	81		1
聖マリアンナ医大	150	35	40	○	2
美しが丘さとう耳鼻咽喉科	147	80	25	○	1
藤沢市民	120	25	10		1
横浜労災	80	15	1		1
しらとり台耳鼻咽喉科	74	40	3	○	1
済生会横浜市東部	60	40	2		1
横浜市大病院	60	25	15		1
昭和医大横浜市北部	15	4	0		5
ゆめが丘みかみ耳鼻咽喉科	—	—	—	○	5

「セ」はセンター、「ク」はクリニック、「—」は無回答または不明
◆の1=25%以下、2=26%~50%、3=51%~75%、4=76%以上、5=不明

V)、メニエール病のそれぞれの患者数や、BPPVに有効な理学療法である耳石置換法の実施率、めまい相談医がいるかどうかを紹介した。

めまいを引き起こす耳鼻科疾患で最も多いBPPVは、内耳の前庭にある耳石器から、カルシウムでできた「耳石」がはがれて三半規管に入り込むために起こる。頭を動かして耳石を元に戻す理学療法で治療する医療機関が増えているが、時間と手間がかかることなどから、実施率が低い施設もある。

内耳がむくんで起こるメニエール病は、利尿剤などの投薬治療や、十分な睡眠や適度な運動などの生活指導も重要だ。新しい治療法として「中耳加圧療法」が18年、公的医療保険の対象となったが、専用の機器の導入が必要なため十分に普及していない。

このほか、ウイルスが原因とされる「前庭神経炎」や、めまいを伴う「前庭性片頭痛」などもある。

個別の治療とは別に、体のバランスを補正する小脳の働きを鍛える「めまいリハビリ」

も有効とされる。めまいは脳梗塞など脳の病気で発症することがある。

まひやしびれなどの症状がある場合は、様子を見ず早期に受診したい。

リハビリ運動根気強く



横浜市立みなと赤十字病院
新井 基洋 めまい・平衡神経科部長

めまい症状の多くは、平衡機能を支える左右の耳の奥にある三半規管の一方の機能が低下し、左右差が生じることが原因となる。当院では、平衡機能をつかさどる小脳を鍛えることで、この左右差を減らす「めまいリハビリ」を患者に教えている。

具体的には、片腕を目の高さで前に伸ばし、親指を上に向けて、首を左右に振りながら親指を見つめ続ける動作を20回行うなど数種のリハビリを、1回7分以内で行う。左右差があると、左右どちらかの目が親指を見つめる時に視線が外れてしまいが、繰り返すことで改善される。

これらのリハビリを行うことで、小脳と平衡機能を支える目、三半規管、足裏の神経のつながりを改善し、薬で改善しないめまいなどに効果が

ある。6か月で効果が表れるが、介護が必要となる一歩手前の状態となる「フレイル」の患者には、効果が出るまで1年近くかかることも推察される。リハビリによって一時的に気分が悪くなることもあるが、運動の練習後に疲れるのと同じで、根気強く続ける必要がある。

めまいの症状ではなく、ふらつき症状を訴える患者が増えている。ふらつきも平衡機能を支える機能に不具合が生じる症状で、めまいの一種ととらえられる。少し休んでも治らないめまいやふらつきがある場合は、近くのめまい相談医に相談してほしい。

全国の調査結果は19日の「からだ」面に掲載しました。